

上半身パターン判定方法



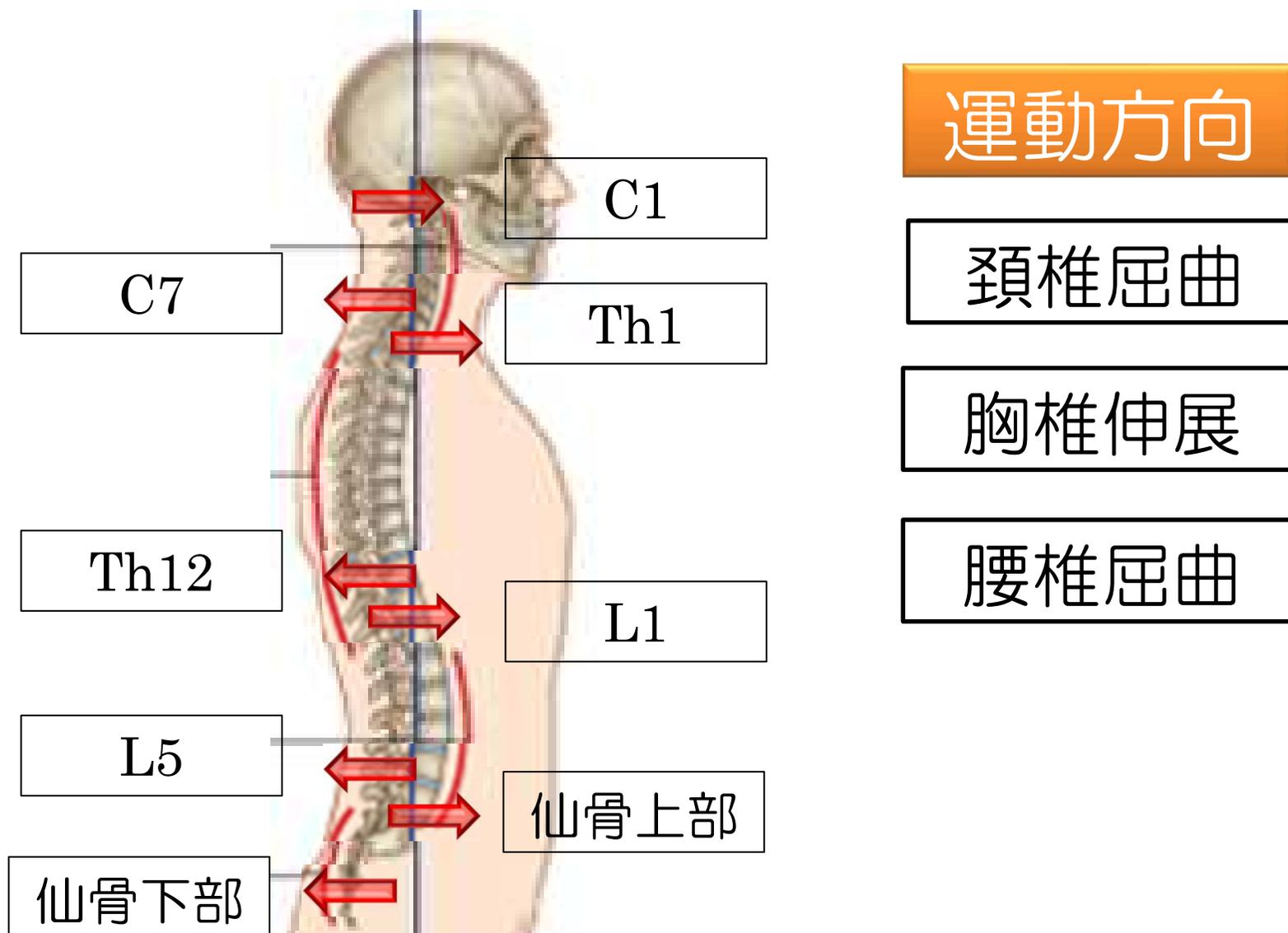
N-EXではパターンを判定することが大切になります。パターンを判定するには、歩行、呼吸、Active SLRなどを用いますが（詳細はセミナー参照）座位でパターンを判定する方法は今まで述べていません。

上半身パターンを判定するには、座位でも可能ですし、車椅子に乗っている患者さんにも応用できます。

本当に簡単なので、是非臨床で試してみてください。

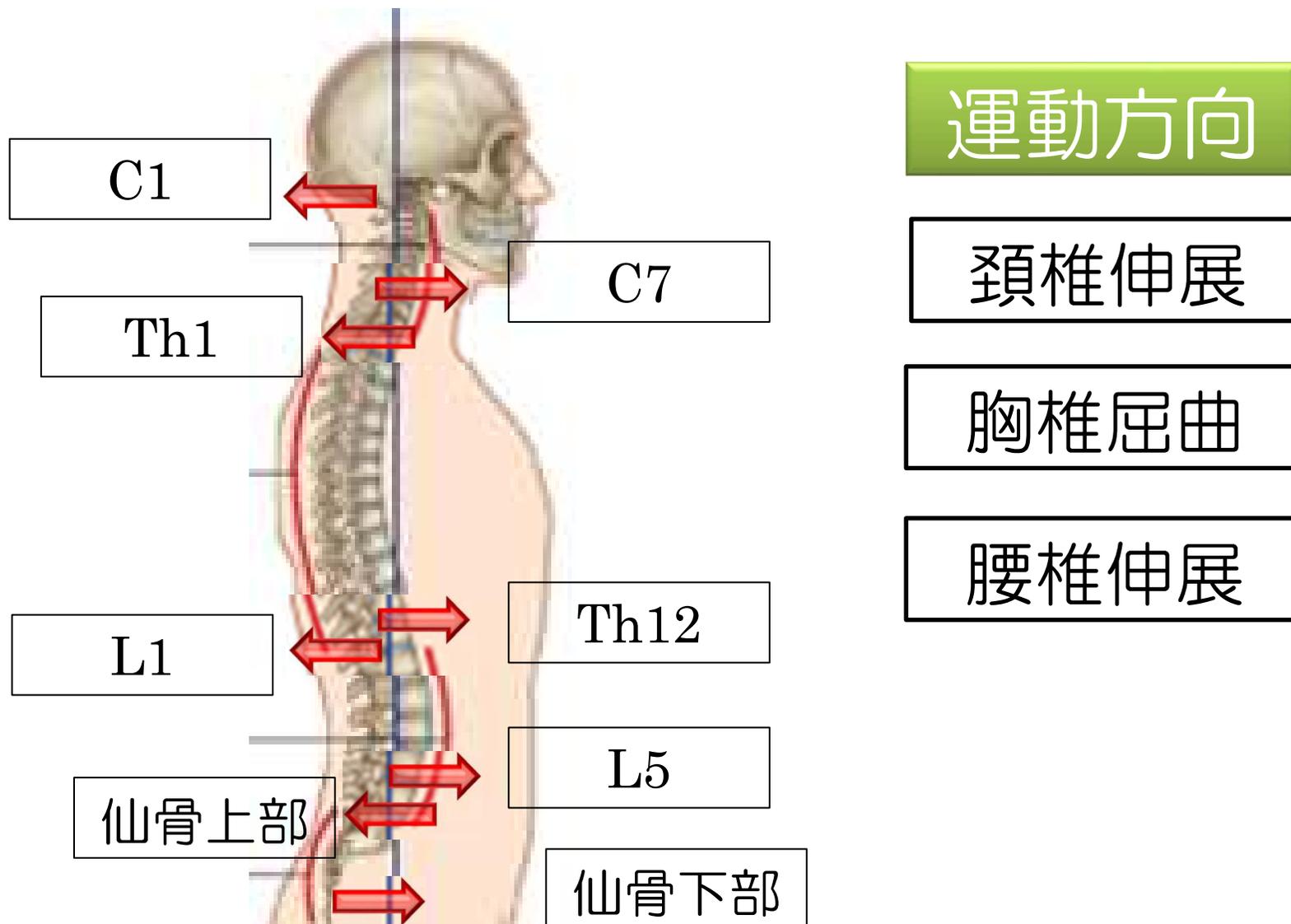
まずは上半身パターンの確認

仙骨前傾のカウンター



入谷誠:アキレス腱炎の予防とインソール. PTジャーナル, 50(5):467-480, 2016.

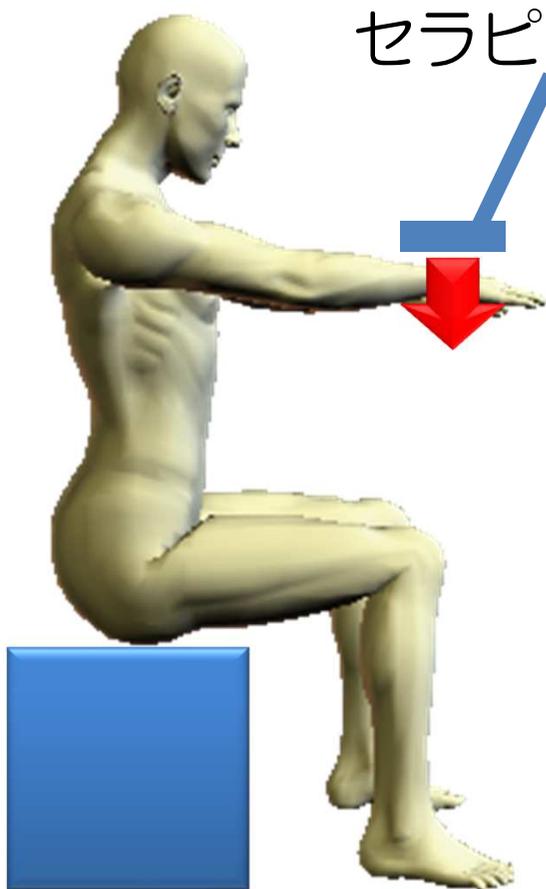
仙骨後傾のカウンター



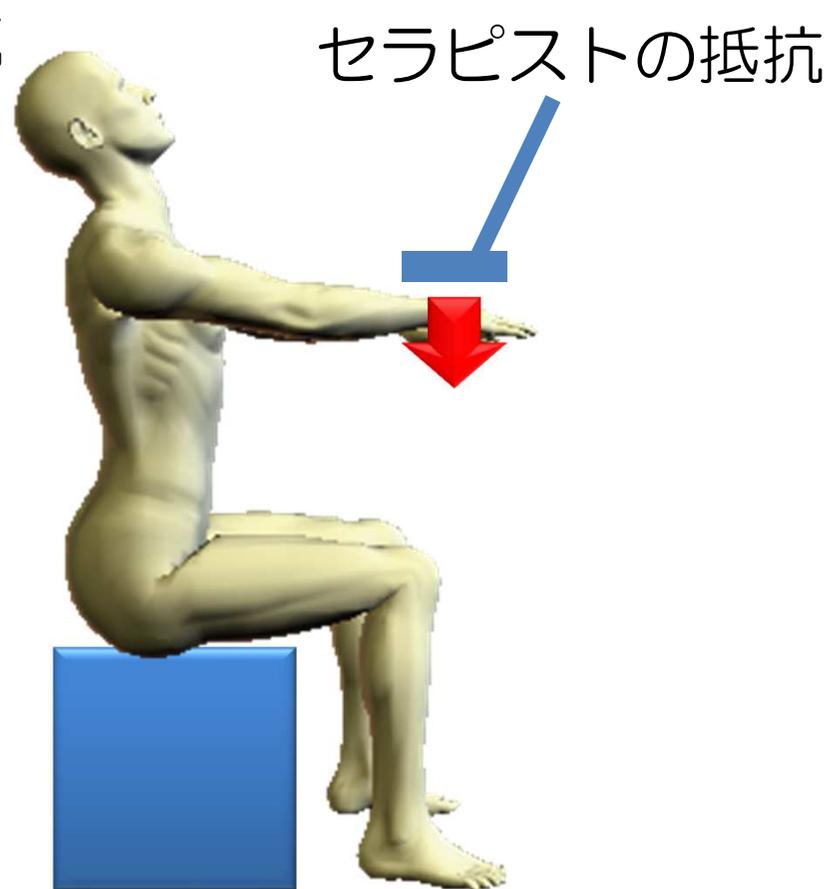
入谷誠: アキレス腱炎の予防とインソール. PTジャーナル, 50(5):467-480, 2016.

座位での上半身パターン判定

仙骨前傾



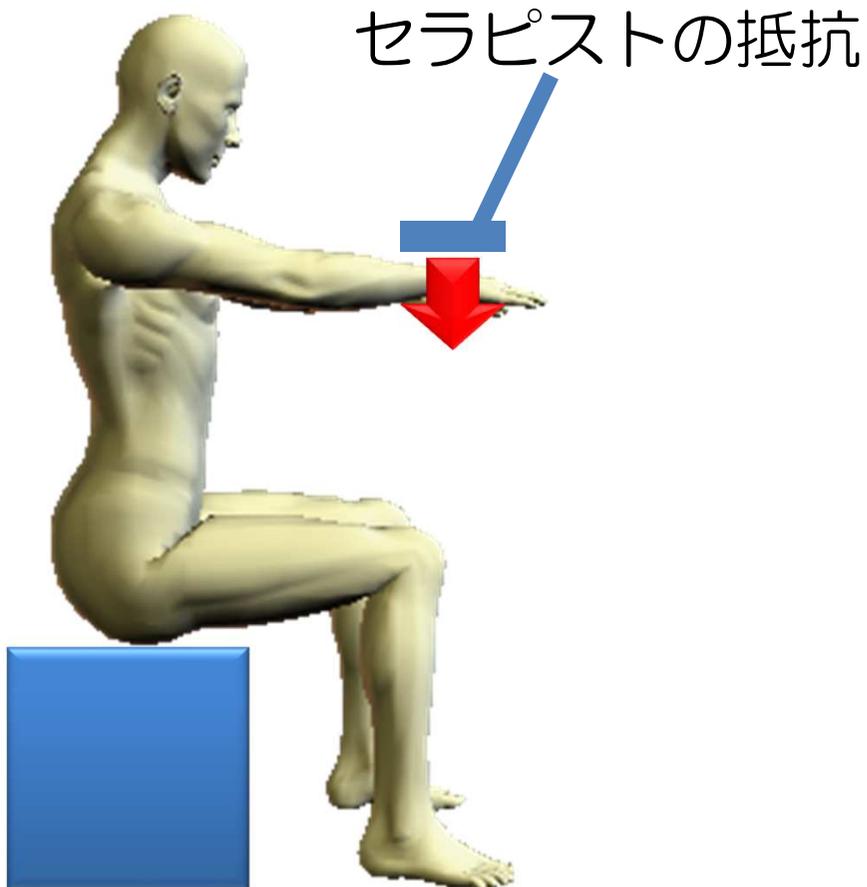
仙骨後傾



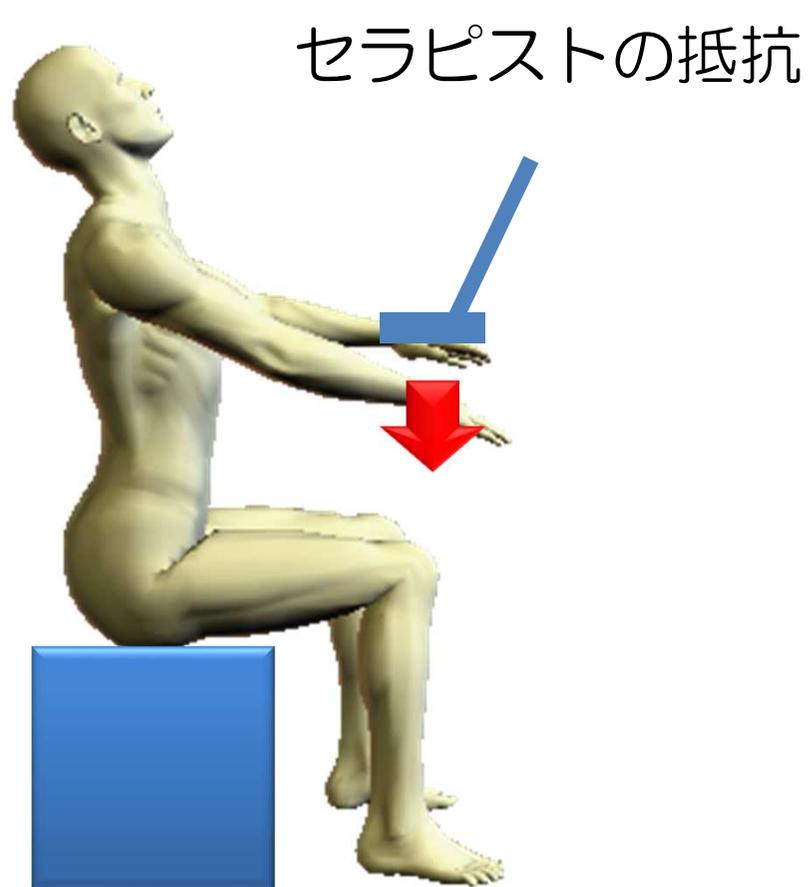
患者さんに肩関節90° 屈曲を保持させ、セラピストは抵抗を加える。頸椎を屈曲させた方が上肢の保持しやすいか、頸椎を伸展させたほうが保持しやすいかを評価する。

座位での上半身パターン判定

仙骨前傾



仙骨後傾



頸椎伸展位で上肢保持をしにくい場合は仙骨前傾誘導である事が示唆される。片側だけで判定しても良い

パターンを判断することは治療をする上で大切ですが、パターンを判断することが難しい場面もあります。そのような場合ではいくつか判定方法を持っておくと便利です。

この判定方法は簡便ですが、臨床では効果的です。

ちなみに、この方法はセミナーでは話したことはありません（笑）

この有料コンテンツをご覧の皆様、是非臨床で試してみてください。

常考常創

Anytime think, anytime create

コンテンツのご利用ありがとうございます。
す。

セミナーのご参加もお待ちしております。
今まで得た知識と技術を惜しみなくお伝えいたします。

